

# Igroup

## communication

Special 13  
2024年10月31日発行

一人ひとりの一隅を  
照らし続ける。



【特集】

バドミントン大会

修学旅行

委員会活動

8・9月の研修会

ブリッジフォースマイル

BOOK CAFE PERCH

子どもたちからのメッセージ動画

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14  
TEL:092-710-0013 [www.npo-aig.jp](http://www.npo-aig.jp)

見やすいユニバーサル  
デザインフォント  
を採用しています。



■ スポーツの日 .....

## バドミントン大会を開催。 グループ全体での参加となりました。

当法人の入居者・退居者・職員が参加するバドミントン大会を開催いたしました。

きっかけは北九州地区の入居者から「バドミントンがしたい」という要望からでした。

北九州地区内の3ホームで集まってしようという声からグループ全体で開催することになり、福岡・熊本・長崎のすべてのホームから参加していただくことができました。

総勢50人を超えて会場内も盛り上がっていました。

選手として参加した子やそれを応援する為に応援グッズを持参して参加をしていた子等、それぞれの参加者が思い思いにすごしていました。

日頃ホーム内では見ることができなかった姿や笑顔や悔しさを表出させている様子等多くの気づきを得る機会になりました。

大会を企画・実施を行っていただいたLUCKの皆様、準備など大変だったと思います。

ありがとうございました。



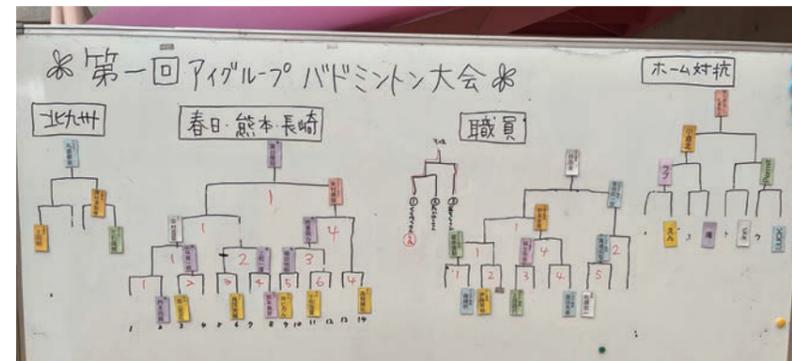
■ 大会実行委員長より .....

本日は福岡、中間、北九州、熊本、長崎から職員様、利用者様、退居者様とたくさんの皆様のご参加ありがとうございました。

今回大会の計画、進行などを務めさせていただきましたが、ルール説明など至らない点が多く皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

全体を通しましては皆様の笑顔が多くみられた事、普段引きこもっている子が出てきたというお話を伺ったこと等嬉しいお言葉を言って頂きました。

本当にありがとうございました。



■ 修学旅行

## ユニバーサル スタジオ ジャパンに 行ってきました。

一般生活費の引き上げに伴って、要望書の内容にあるような年齢に応じた社会体験を積ませる為という主旨をふまえて、当法人ではどのように取り扱うのか委員会や管理者会議で検討しました。その結果自立援助ホームにいる年齢で高校に行っている場合、修学旅行は体験できますが、就労・自立を目指す当法人内の人居者では高校に行っていない、または修学旅行がない通い方をしている子が多い為、修学旅行を取り組むことにしました。

行先の候補もアンケート調査を行い、一番希望が多かったユニバーサルスタジオジャパンに決定しました。福岡・熊本・長崎から移動して現地で合流。修学旅行のおしりも作成して、事前に引率する職員も対面で集まって打ち合わせを行い、人居者にも説明を行いながら当日を迎えました。服薬の管理や体調を崩した場合の薬の備えも準備して、食事やお小遣いの予算も事前に決めたとうえで進めました。

成人している子や大阪へ行ったことがある子もいる為、大阪観光もさまざまな対応も想定しながら準備していました。

天気も前日までは雨の予報でしたが当日は小雨が一時的程度で過ごすことができました。

行きは少しでも早く到着したいという想いから始発に合わせて4時代から移動して、USJには9時台に入ることができました。

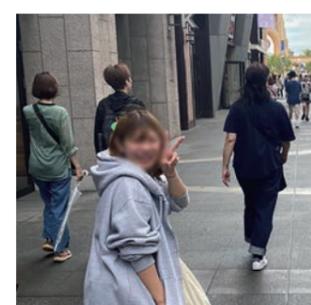
熊本・長崎は11時台には到着して合流しました。1人の入居者が新幹線に財布を置き忘れてしまい問い合わせをしたら見つけて安心しましたが、その子のテンションは下がってしまいました。

パーク内では仲良しの子たちは自由行動、職員が引率して一緒に楽しむ子や連絡を取り合いながら合流する等それぞれ考えてすごせたようです。

はしゃぎすぎて体調を崩して静養室を利用する子や、夜までいる予定をしていた子も予定を早めて宿泊先へ移動する等、職員の方も連絡を取り合って連携していました。

体調を崩していた子も静養後に回復して元気にすごせていました。

宿泊先はホームと同様の3・4LDK等の住宅を利用しました。翌日はユニバーサルスタジオジャパンで過ごす子と、大阪観光をする子で分かれて夜までにはそれぞれのホームへ帰宅しました。



## ■ 研修整備委員会

研修整備委員会では、月2回程度リモートで委員会を開き、法人内研修の計画・準備・スケジュール調整や、法人内外研修の取りまとめ、BCPの策定等に取り組んでいます。その中で、質の高い支援や職務での不安や悩みの解消が出来ないかと検討しています。

法人内研修の計画時には、事前に研修を受ける職員にアンケートを行い、職員の方々の意見を取り入れながら研修を計画しています。以前のアンケートの要望にも合った、研修会場を各ホームのある、福岡、熊本、長崎で行うようにいたしました。また、講師の方とも事前にリモートで話し合いを行い、アンケート結果や、職員の悩み、学びたいことなどの要望をお伝えしてより良い研修を提供できるように取り組んでいます。



## ■ BCP研修

研修整備委員会ではBCPの策定にも取り組んでいます。地震などの自然災害やウィルスの流行など、いつ発生するかわからない緊急事態に対応するとともに、より迅速な事業再開のために各ホームで研修を実施して、災害発生時の対策を中心としたBCPの策定を進めています。

第1回は、ハザードマップを使い災害時の避難場所や避難経路を把握し、入居児童へ周知する。保存食や備品を確認し補充、入れ替えを行う。緊急連絡先リストの作成や情報収集の手段、電話がつかない場合の対応などを各ホームで確認しました。

第2回は、災害時を想定し入居児童の安全を守るためにどのようなことが必要かを考え、関係機関や地域に支援を求め、連携を図ることが必要です。そのためには、地域支援に取り組み密接な関係を築くことが重要だと感じました。災害時の協力体制作りにつなげることにもなります。これ

児童と年齢の近い職員や、児童と異性の職員の困り事や大変さを他ホームの職員と話す機会を検討している最中です。11月の研修では、直接支援委員会が作成した事例マニュアルを元に、共同で事例検討会を行う準備を進めています。グループワークで他ホームの支援の在り方や、悩み、成功事例、失敗事例などを共有できればと考えています。

職員に限らず、入居児童にも提供できる役立つ研修も計画しています。

職員の皆さま、日頃からアンケート等ご協力いただきありがとうございます。

来年度の研修も少しずつ計画しており、今年度の研修の振り返りを行いながらより良い学びの場になるよう委員一同力を合わせ活動していきたいと思ひます。

からの課題になりますが地域支援も各ホームで取り組む予定です。

いざという時に冷静な対応が出来るように職員だけでなく入居児童も一緒に知識を広げていくことが大切なため消防署の方に災害時の講話や救命講習をしていただきました。AEDの使い方や心肺蘇生の仕方などを教えていただきましたが、実際行ってみると焦って忘れていたり、思いのほか力が必要だということがわかったり、児童も真剣に聞き、災害に対して考える良い機会となりました。地震も頻発している中、日ごろからの備えが必要になります。状況に合わせた研修を行い、都度BCPの改善を行っていきます。第3回は、感染症災害の対策を予定しています。



## ■ 法人内研修のご報告

今年度は毎月講師をお招きして対面の研修会を開催しています。8月は 大谷先生から自立援助ホームでの経験談を元に講演をしていただきました。大谷先生は私が介護職のヘルパー養成校に通った時に知り合っ てからのご縁です。資格取得後は数年たち、福岡市の生活困窮者支援の企画競争時の説明会をきっかけに自立援助ホームのを知ることに なるのですが、また数年たち自立援助ホームを開設することを決めてご 連絡させていただき色々教えていただいたことを懐かしく思います。大 谷先生に講師をご相談した際にお伝えしたポイントは、①待つ支援の認 識違いを気づかせたい。②支援者の意向を取り組ませることが求めている 支援ではないこと。をふまえてお伝えしていただきました。大谷先生はさ まざまな質疑に対して体験談を元に事例を伝えながら参加者の方が 自ら気づくような言い回して語っていただきました。

今回の研修を経て実践できそうなこと

- ・皆んな血を洗わず注意するべきなのか、これで自立できるか悩んでま したが、良く考えれば自分も子供の頃してなく結婚して親がこうしていた などと思ひながら日々しているの、する姿勢を見せようと思ひます。
- ・常に笑顔で接する。職員にも利用者にも。
- ・チームで利用者向き合う。児童の主体性を大切にす。
- ・つつい社会の常識に当てはめた考えを児童にも求めがちだったが、困 った個性とどう付き合い支援していくか職員としての姿勢を学びました。
- ・ゆとりをもった支援を行いながら、笑える環境作り
- ・入居者でも職員同士でも、相手がどうしたいか、どのように考えている かを、しっかり聴かせてもらうことをします。
- ・目標達成に向けて〇〇すべきと言う感情はなくしていく
- ・気持ちに寄り添う支援をすること。児童が自ら話出すまで待つことも大 事だと思ひますが、放置ではなく、ちゃんと見ているよ、という気持ちがわ かるように声かけを絶やさなかったりそういう温かい支援をしたいと思 いました。
- ・自分だからこそできる役割を見つけることが出来た気がするので実践 していきたい
- ・正解はないので、迷ったら協力しあいながら関わっていくこと
- ・利用者や職員の悪い点ばかりを見ずに、他者から受け入れられている 点を見つけて尊重する努力をしてみたいと思ひました。
- ・良いチームワークを取れるように努力しようと思ひます。
- ・視点を変える事も必要。捉え方を変え前向きに物事を進める。



- ・自分のご機嫌取りは自身です。弱い自分を受け止め力を抜くことで 余裕ができ、児童や職員間でも笑顔で接し受け止めることが出来るの ではないかと思ひました。
- ・相手の話をよく聞く。話をとぎらない。
- ・児童の課題が、課題なのか。その背景まで考えたうえで支援を行う。
- ・丁寧に話を聞いて、じぶんのじょうしきや正論を押し付けない
- ・職員同士で支援の方向性のすり合わせをすること
- ・なぜこの言葉に子供達が反応したのかを深く考えることや職員の言葉 を誤解してしまった子供達に誤解だよと伝え職員達のフォローをすること
- ・9月は胡内先生をお招きして制度について学びました。胡内先生の研修 会は今年で3回目です。回を重ねても新たな気づきが得られる内容で参 加者も有意義な時間となっているようです。今回は託児も準備して多くの 職員の皆様にご参加いただけました。翌日はホーム見学をしていただき ました。今回は“社会的養育”について学びました。 学びについては以下のとおりです。

- ・社会的養護と社会的養育を詳しく知る事が出来ました。
- ・新しい制度について理解が深まりました
- ・子供を取り巻く現状(出生数の減少、児童虐待の増加や虐待を受けた 年齢構成、対応の内訳(施設は全体の2%)子育て支援の状況など)
- ・すべての子どもたちを社会全体で見守り、育てていくという社会的養 育。そのための社会全体での繋がりや、私たちが求められている役割 や支援方法など。
- ・自治体との交流や、行政との連携を密におこなうことによって声が届い ていない子供達との関わりがひろがっていく。
- ・児童相談所との連携の大切さ。
- ・自立援助ホームの役割や関係機関との連携の大切さを学びました。
- ・ホームが安心安全な場所だと言うことは変わらないが、退去後、自立し てからのことも考えつつ支援していくことが大切だと思ひた
- ・少子化に反比例するように虐待が増えている事について、親への支援 (特に女性側)を徹底的にしていけることが必要とのことを学びました。
- ・子ども達を取り巻く全ての機関がそれぞれの役割をしようえて、子ども 達のことを考えながら連携していくと、よりよい支援になっていくと改めて 感じました。
- ・色んな機関が連携して子どもたちを養育して行くことが大切なのだと 思ひました。地域との関係性も築いていく必要があると感じました



ブリッジフォースマイルのご紹介



親を頼れないすべての子どもが  
笑顔で暮らせる社会へ

認定NPO法人ブリッジフォースマイル

https://www.b4s.jp/

認定NPO法人ブリッジフォースマイル（以下、B4S）は、児童養護施設や里親家庭から18歳で社会に出る若者たちを、巣立ち前から巣立ち後まで支援している団体です。20年前、まだ「児童虐待」をはじめ、「児童養護施設」で暮らす子どもたちがいることや、施設を退所した後も困難な状態に置かれていることなどが、ほとんど知られていない頃に活動が立ち上がり、これまでに子どもや若者7,000人ほどの支援に携わっています。

親を頼れない子どもたちが、社会へ羽ばたく時に直面する  
「安心の格差」と「希望の格差」を乗り越え、  
未来へ向かう勇気を持てるような支援をカタチにする

「実家」というセーフティネットを持たないことから生じる「安心の格差」。将来に希望が持てず、羽ばたき続けるモチベーションを保てない「希望の格差」。子どもたちが巣立ちの時に直面するこの2つの「格差」を乗り越えるために、3つの活動をしています。

- 親を頼れない子どもたちの 巣立ち支援**  
一人暮らし準備やキャリア形成のためのセミナー、居場所や住まいの提供、伴走支援、就労・転職サポートなど、子どもたちがスムーズに社会に羽ばたくことができるよう、巣立ち前から巣立ち後まで一貫した支援を行っています。
- 子どもを支える大人を増やす 伴走者の育成**  
私たちの「巣立ち支援」は、社会人ボランティアのみなさんに支えられています。ボランティア活動を安心かつ適切に行えるよう運営体制を整えています。ボランティアや児童養護施設職員、里親向けのセミナーも行っています。
- 子どもを支える社会をつくる 広報・啓発活動**  
社会的養護への正しい認識と関心を広め、親を頼れない子どもたちが安心して巣立つことができる社会をつくるため、情報発信や広報活動、調査研究などを行っています。



アトモBBQ  
つながりのある若者たち・ボランティア・B4Sスタッフが100人以上集まって行う人気のイベント。タテ・ヨコ・ナナメの関係構築を築けるこのような機会は、年に数回企画されている。

研修制度を整え、安心・安全にボランティア活動ができる魅力

社会人経験がある、500人以上の方々々がB4Sにボランティア登録をしています。子どもたちにとっても、自分自身のためにも安心・安全に活動ができるよう、さまざまな研修制度を整えていることも大きな特徴です。また、経験年数などにより、支援できる幅が広がる仕組みになっています。さらに、10年計画で進めている「全国児童養護施設退所者トラッキング」の報告書作成や、記事の執筆などにも、プロボノとして参加している方が多くいます。



社会的養護の中高校生 ケアリーダー

相談（問題解決）と交流を柱にした支援は、多くの社会人ボランティアに支えられている

制度利用のしづらさや地域格差をなくし、必要な支援を届けたい  
2024年の新しい取り組み

支援対象者と伴走メニューの拡大

2024年4月に施行された改正児童福祉法により、これまで児童養護施設に入所などの“社会的養護出身者”だけだった支援対象者の枠組みが広がり、“親を頼れず困っている若者全般”が対象となりました。しかし、このように行政の支援が進みつつある一方で、自治体ごとの支援格差や制度のはざまで、多くの若者たちが支援の網からこぼれ落ちてしまっている現状があり、このままでは解決しないと私たちは危惧しています。B4Sでも支援の枠組みを広げ、社会的養護につながっていない、とりこぼされている子どもや若者、大人たちを含む支援に乗り出しました。また、支援格差が生まれる要因として、誰にどのくらいの期間、人とお金をかけて支援をするのか、明確な基準がないことがあげられます。B4Sでは、これまでの支援の経験から、相談者の状況を把握するための7区分56項目からなる「自立度チェックシート」を作成しました。その回答を点数化し、レーダーチャートで可視化できるようにしています。診断結果を本人や支援関係者と共有しながら、支援のPDCAを回します。支援を通じて得られた成果とコストを算出し、しっかりと検証したうえで、制度の実施や改善につなげる政策提言をしていきます。

支援の PDCA

Plan：計画 本人と一緒に解決すべき問題の特定、支援内容、目標を設定し、支援計画を作成  
 Do：実行 合意した内容および期間で支援を実施  
 Check：評価 再び自立度チェックシートで変化を確認  
 Action：改善 計画の見直しや支援終了を、診断結果に基づいて判断

親を頼れない10～30代向けの相談・支援ページを開設

電話やLINEで気軽に相談ができる「相談・支援」を開始しました。個人支援を行うスタッフが対応し、悩み事を聞いたり、必要な支援についています。新設した「相談・支援ページ」では、B4Sのさまざまな支援メニューがわかりやすく紹介され、必要な人に必要な支援が届けられるよう工夫されています。相談・支援ページ ▶ <https://www.b4s.jp/care/>



緊急ショートステイをスタート

「仕事を辞めて寮を出なければいけない」「家賃滞納でアパートを追い出されてしまった」「パートナーのDVから逃げたい」こうした相談に対応するため、東京・神奈川・北海道の計3カ所所ショートステイを始めました。すでに、数人の方が、ショートステイを利用しています。スタッフが毎日、見守りに行き、その後の孤立を防ぎ、自活できるようになるためのアドバイスをしています。また、緊急支援がなく空いているときには、施設にいる子たちの一人暮らしの予行練習としても、この場を活用してもらいたいと思っています。



緊急ショートステイ（神奈川）

2つの居場所【B4S PORT】を増設し、全国6カ所で居場所運営

居場所を新たに【B4S PORT】と名付けました。1月に東京・浅草橋、7月に北海道・札幌を新設し、現在は全国6カ所で居場所運営を行っています。企業からご支援いただいた家具でコーディネートされた室内は、いずれも明るく開放感がある場所となっています。各居場所、独自のイベントやSNS発信に力を入れています。



東京都/しもきた、あさば 神奈川県/よこはま  
熊本県/くまもと 佐賀県/さが 北海道/さっぽろ



B4S PORTあさば

コエールチャンネルを新設し、各地でワークショップを開催

親を頼れなかった当事者のスピーチで社会に理解と行動を促す啓発活動として、2019年から「コエール」を開催して参りました。コロナ禍前は大きな会場で、コロナ禍以降はオンラインイベントとして続けてきましたが、さらに広く深く人々の心に届き、「社会を変えたい！」と思う仲間が増えるように「コエールワークショップ」として生まれ変わりました。スピーチはYouTube【コエールチャンネル】にて、ご覧いただけます。ワークショップには当事者が登壇し、参加者と一緒に社会問題を考えます。ワークショップの詳細はB4Sへお問合せください。



## ■ BOOK CAFE PERCH

## 夏といえば、祭り!!祭りといえば、夏!!!

## PERCHでは、8月に2日間に分けて「夏祭り」を開催しました。

PERCHで企画するイベントには、アイグループに関わったすべての子どもたちが参加できます。現在自立援助ホームに入居している子、ホームを退居してそれぞれの場所で暮らしている子、それからassistroom(アシストルーム)を利用中の子どもたちです。PERCHと同じ福岡県春日市のホームから、北九州地区、熊本、長崎まで、さまざまな場所から参加してくれています。これまでPERCHは、季節感をたいせつにしたイベントを行ってきました。プレオープン兼ねたハロウィンイベント、クリスマスパーティー、春の桜フェスタにつづき、今回は「夏祭り」です。

秋がこんなに待ち遠しい夏もなかったですね。毎日、毎日、35度前後の気温。心も体もしんどい夏でした。そんな中、みんなに元気になってもらえるように、夏っぽく!祭りっぽく!たのしく!を意識して企画しました。メニューは あげたこ・かき氷・カレー・ハンバーガー・からあげ・わたがし・フロートなど。店内の壁には、短冊型に作ったメニューを並べて雰囲気盛り上げます。また、カラフルな提灯を店内の梁(はり)につるし、本棚には、祭りの屋台のようにお面を並べました。浴衣を着て参加してくれた子や、飾っているお面をつけ



て写真を撮る子もいて、すっかり会場はお祭りムード!食事もみなさんに喜んでもらえたようで、たくさんオーダーいただきました。今回好評だったハンバーガーは、祭りの後もカフェのレギュラーメニューとなっています。

ゲームコーナーは、ヨーヨー釣り・射的・ガラポンの福引きで大盛況。射的では、スタッフも子どもたちも、真剣にまた大笑いをしながら夢中になっていました。違うホームの子と交流していたり、別ホームのスタッフ同士もコミュニケーションをとったりする様子が見られ、合同でイベントを開催する良さを改めて感じました。

「ごちそうさまでした」「おいしい!」「かわいい♡」などなど、温かな感想がとてうれしかったです。わいわい盛り上がる皆さんに、元気をわけてもらいました。

PERCHは、6月にいったんお休みをして7月から再始動を

したのですが、最近は、近くに住む子どもたちが暑い中バスに乗って、また歩いて何分もかけて、店に来てくれることも増えてきました。学校帰りやバイト前に立ち寄ってくれる子もいます。ランチを食べたりスイーツを食べたり、楽しくおしゃべりしたりのんびり過ごしたり。カウンターで学校課題を頑張る子もいますし、近況を話してくれる子もいます。「いつもの」と注文してくれるのも微笑ましいです。みんなが気軽にふらりと来てくれて、楽しく過ごしてくれたり心を休めたりしてくれたりいいな、と思います。これからも、PERCHはだれかのサードプレイスになれるような場づくりを目指します。

今年の10月31日にプレオープンしてから、季節がひと巡りしました。ここに立ち寄ってくれるみなさんの笑顔が原動力にして、スタッフ一同がんばっています。そして、今年のハロウィンにもまたみなさんに楽しんでもらえるようなイベントを企画しています。楽しみにしていてくださいね。



子どもたちの自立を  
家族のように支援する、  
プロフェッショナルたち。



## ■ 直接支援委員会

直接支援委員会の最近の取り組みについてお話をします。現在の委員メンバー構成は各拠点(福岡、北九州、長崎、熊本)に1名置いています。これは整備に入る時にスムーズに伝達、改善作業が行えるようにとの考えです。委員会ミーティングは月に2回程度のペースでzoomを使用しておこなっています。現在は「運営指針各論、総論、事例マニュアル」作成を進めてきましたが最終段階のところまでくることができました。添削作業に関しては委員会以外の方たちにも協力をしていただいたところ。直接支援委員会だけでなくアイグループの皆で作上げた冊子になると思うととても感慨深いです。この3つのマニュアルを読むことでスタッフの理解が進むこ

と、支援の幅が広がること、迷いや不安の軽減、意欲につながれば幸いです。その他の活動としては、他委員との共同の企画が予定されています。研修委員との共同の企画になります。作成した事例マニュアルを元に事例検討会を社内研修でおこなう計画を立てています。直接支援委員が作成したマニュアルを使用しての活動になるのはとても良い循環だと思います。作成されたマニュアルを読むだけでなく、参加スタッフ全員で日頃の支援のありかたや、悩み、成功事例、失敗事例などを共有できる場を設けることができるのはとても意義のあることだと感じています。今後もあらゆる形でスタッフの支援技術が向上される機会を作り子どもたちに還元できればと思っています。

## ■ 法人内でのお祝い制度や支援について

当法人が大切にしていることのひとつに“誕生日”があります。ホームですごしている入居者やassistroom利用者・退居者等も対象です。誕生日はその子にとって特別な日であってほしい。生まれてきたことに感謝できる機会であってほしいという願いがあります。ホーム内で誕生日を迎える子にはプレゼントも準備してどのようにすごしたいかを決めてもらいます。(ホーム内・外問わず。) 20歳の誕生日には、お祝い金として1万円届けています。結婚した子には、お祝い金として3万円届けています。出産した子には、お祝い金として5万円届けています。また、支援者の写真館にご依頼し、希望者には成人式の前撮りをプレゼントしています。assistroom利用者にもフードバンク等の支援を行い一人暮らしをサポートしています。

スマホやWi-Fi等も必要に応じて提供しています。BOOK CAFE PERCHでもご本人とそのパートナーには料金をいれずに飲食を提供しています。通院や役所への同行依頼や畑での就労体験や協力事業者との就労体験の機会など支援の枠組みが広がっています。昨年からは特に退居者とのつながりが増えていることを嬉しく捉えています。



## 博多食文化の会参加と LUCKの日常

**残** 暑厳しい中にも、少しずつ秋の訪れを感じられる季節となりました。LUCKでは博多食文化の会に入居・退居児童と職員で参加させて頂きました。皆楽しそうに過ごし、鮪の解体ショーでは目の前の大きなマグロに目を輝かせておりました。その場で頂く命の循環に感謝しつつ、おかわりをしながら嬉しそうに食べておりました。食を通じてフードロスについても考えるきっかけになり、『食べ物』を『大切に頂く』事を日々の生活の中で大事に思ってもらえたらと思います。今後も子どもたちと一緒に博多食文化の会に参加できればと思っています。

日常では暑さにも負けず、アルバイトや学校へ行き過ごしております。その中で子どもたちと一緒に花火大会へ行ったりお誕生日の子のお祝いをしたり、何気ない日に職員も混ざりゲームをしたりと賑やかな日々を過ごしております。花火大会では、音楽に合わせて花火が上がる所を見て写真や動画を撮りテンションが上がる子どもたち。お祭りにある出店を見て「あれが食べたい!」とはしゃいでいる子どもたち。お誕生日の子がいたらみんなでお祝いをする優



しい子供たち、と笑い声が絶えない日を過ごしております。このような毎日を送って行く中で、子どもたちの行動や考えがしっかりとしたものになる場面を目の当たりにし、それぞれの成長を実感しております。最近では成人式の前撮りも行い、その成長に感慨深いものがありました。

これからも職員も成長しながら子どもたちに寄り添い、共鳴し、心に残る支援が出来ればと思っています。



## 笑顔あふれる日常を

**だ** んだんと涼しくなり、過ごしやすい季節になってきました。現在テンポラリ小倉北では6名の児童が生活しています。

8月に三井グリーンランドへ行きました。児童たちは行く事が決まった日から心待ちにしており、普段は夜更かし気味で早起きが苦手なのですが、自分達で6時に起きて出発予定時間までに準備をすることができていました。長距離移動だった為、新たな気づきがあった一日でした。イベントを通して、児童たちが自分で考え行動できた事、思いやりを感じられた事、思い出に残る一日を過ごす事が出来ました。

パーティのイベントでは、浴衣で参加したいという児童の希望で、浴衣の着付けをしていただきました。浴衣での参加がとても楽しかったようで、ホーム近隣の夏祭りの時には自分で着付けができるようになっていました。

十五夜ではお団子づくりを一緒にしました。きれいな丸いお団子にはなりませんでしたが、作っているそばから食べている児童もいました。大きな満月だったよと伝えると、ホーム近隣の公園でお月見をする児童もいて、「あんな大きい月はじめて見た。きれいやった



けん見て」といながら写真を撮って来て見せてくれました。イベントは、「これでまた明日から頑張れる」と言う児童もいます。学業や就労の両立、やりたい事がみつからずもがいている児童等、さまざまな悩みを抱えて生活しています。日々頑張っている児童達が心から笑ってすごせるホームであるように、児童の気持ちに寄り添う事を大切にしていきたいです。

## 日々の成長を大切に。

**現** 在5名の児童と愛犬のこてつと生活しています。8月の初旬に児童2人が誕生日を迎えました。アイグループの誕生日は個々の希望に沿ったお祝いをする文化があります。今回は2人の希望により、博多方面でショッピングや散歩してきました。

また、BOOK CAFE PERCHの夏祭りイベントや他施設合同でのレクリエーションで三井グリーンランドにも行きました。忙しい1ヶ月でしたが夏休みでしかできない貴重な体験をさせて頂きました。引率した職員は、児童の普段見られない笑顔や意外な一面を見て感動し、喜びも感じています。残念ながら参加できなかった児童もいますが、お土産を渡すと喜んでくれました。いつかは、みんな一緒にどこかへ行ってみたいものです。

そして、春からホームの裏庭で育てたトマトやナス、大葉は良く実り(素人園芸でしたが)、他施設にもお裾分け出来るほどの大収穫でした。毎日のように食べ、終盤は飽きてしまいましたが(\$..)/~~~ これからも大きなイベントはもちろん、日常生活の些細な事でも、児童と楽しみ、時には苦しみも分かち合い、成長を見守っていき



いと思います。追伸9月12日に愛犬のこてつが交通事故により亡くなりました。児童に笑顔と元気を与えてくれていたのでショックも大きかったです。お葬式をしてお別れをしました。こういう時こそ心のケアを第一に考えます。そしてこてつから学ばせてもらった命の尊さをかみしめていきたいと思っています。

## イベントで育むコミュニケーションカ

**夏** の日差しが眩しい8月。innでは、8月のイベントとしてマリワールド海の中に道へお出かけと、PERCHでの夏祭りに参加させて頂きました。

初めて行くという児童もいて、前日からウキウキしていました。当日の朝、出発時間を間違えた児童がおり待たされた児童がイライラする場面がありちょっとしたハプニングがありましたが無事出発。参加児童は3名、普段から特別仲が良いわけでもない3名でしたが、1台の車に乗り込む際には偏らないよう職員を入れて座る位置を考えお互いを気遣う様子が伺えました。道中はいろんな話で盛り上がり穏やかな雰囲気で到着しました。

暑い中の水族館は、見るだけでも涼しく様々な生き物たちは私たちの目の保養をさせてくれました。児童達も、「かわいい」「すごい」等声をあげながら記念撮影に行く先々でしていました。そして、翌日の夏祭りではゲームにくじ引き・食事まで提供していただき楽しいひとときを過ごしました。他のホームの児童達とも会うことができ、まだまだ交流とまではいきませんが、児童達の視野が広がる意味では最高のイベントだったと思います。



十五夜では、児童と一緒に団子づくりに挑戦しています。団子粉と水を少しずつ加えながら、神妙な面持ちで頑張っていました。上手に出来上がり、それぞれ好みの味で食べていました。夜には、近くの海岸に行き綺麗な月を見て心癒されました。このようなイベントを通して、いろんな人に会い、話を聞き、応じることができる。この繰り返しで、人との関わり方を覚え社会へ自立していつくれる事を職員一同心より願っています。

## 熊本のお祭りと大学受験

**虫**の音が深まる秋を感じる今日この頃、ラブでは3人の児童が生活をしています。熊本では9月に藤崎八幡宮例大祭というお祭りが開催されます。千年以上の歴史があり、神様が御自ら氏子地域にお越しなる大切なお祭りです。祭りの中心となるのは、神輿にお迎えした神様が外へお出ましになる「御神幸」です。神様のお供をして護るために御神輿を中心に神職や壮大、祭礼衣装に身を包んだ良民が楽奏と伝統の舞を披露しながら進みます。最後尾が呼び物の勢子(馬を追う人)と飾り馬です。団体ごとに趣を凝らした飾り馬と勢子の集団が生命力溢れる賑わいを奉納するために、威勢よく街を掛け抜けます。今年1人の児童がそのお祭りに参加しました。普段外出することはあまりなく、大人しい印象の児童ですが、お祭りでは生き生きとした表情で自身の持ち場をこなしていました。他の児童と職員が見に来ているのを見つけると、笑顔で手を振ってくれ、後で話を聞くと「楽しかった」という言葉が聞かれました。こうしたいつもと違う活動を通して、児童の強みの発見や興味の幅が広がることでの将来に向けた自己理解が

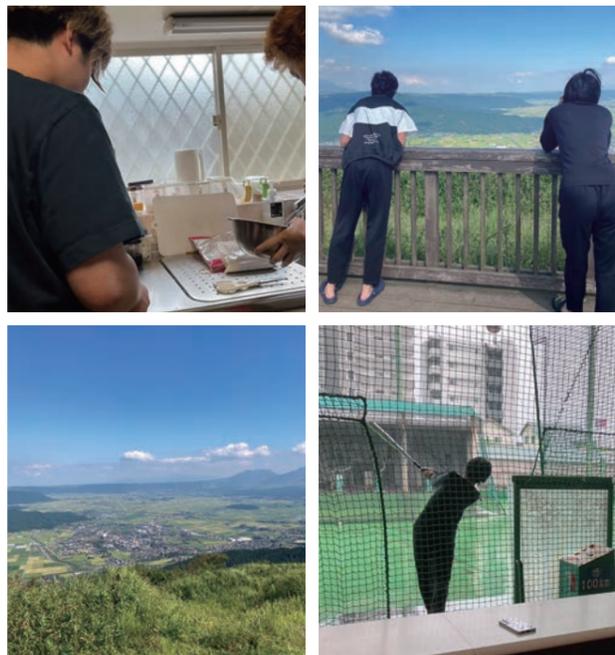


深まるように、ラブでは毎月のイベントを大切にしています。現在、大学進学を目標としているため、なかなかイベントに参加できない児童もいますが、受験後のイベント参加を楽しみにしています。今後も楽しみながら、自立へ意識を向けるような支援を目指していきます。



## 自立に向けてステップアップ

**ま**だまだ暑い日が続く9月、心配されていた台風10号ですが大きな被害はなく、児童たちが安全に過ごせてほっとしているところです。庵は8月の中旬にホームの移転があり、児童・職員ともに新しい生活の場に期待を膨らませながら引っ越し作業を行いました。ホームが移転したことでアルバイト先への通勤距離が縮まった児童もあり、その分将来の目標に向けた資格取得のための勉強の時間に充てることができると喜んでいます。その児童はアルバイトを始めた当初は、アルバイト先での対人関係や仕事内容への困りを話し、継続することへの不安を持っていましたが、試用期間を勤め上げ、正式に雇用となり勤務時間が伸びて時給もあがるなど着々と目標に向けて頑張っています。また、生活面でも自立の準備をしており、直近の目標である車の運転免許を取得に向けて貯蓄と手続を進めています。



藤を抱えながら、一つずつ乗り越えて現在の姿があります。成功も失敗も積み重ねながら成長する姿を見て、挑戦を続けるという姿勢に職員一同初心にかえることができました。今後も、児童が安心して様々なことに挑戦できるように、成功も失敗も一緒に振り返りを行いながら成長を促すような支援を目指していきます。

庵にきた当初からそんな姿というわけではありませんでした。他児との関係に悩んだり、ホームでの過ごし方に戸惑ったりと、様々な葛

## 趣味をいかし イラストレーターの夢を目指す

**M**さんは令和6年8月より措置入所となりました。これからどのように過ごしていきたいか面談を行いました。将来はイラストレーターになりたいと話します。自室で過ごす時間絵を描いている姿がよく見られます。手先も器用でお母さんから編み方を教えてもらったとミサンガを上手に編んでいます。まずはバイトをしてお金を貯めたい、洋服を買いたい、髪を染めたいとやりたいことがたくさんあり何から始めていくか一緒に考えました。バイトを始めるにあたり、自分に合った業種選びや応募の仕方について確認しました。就労支援を行いながらホームでの生活を安心して過ごせるよう支援しています。



## 自立に向け料理にチャレンジ

**2**号室に入居しているRさんは調理が得意でクッキーなどをホームで作ってくることがあります。9月某日、夕食に皆のハンバーグを作りたいとの申し出があったため調理をお願いしました。手洗いもしっかり行い、使用する食材の準備をし調理開始!!ソースには〇〇の調味料があるなど味見をしながら作り、この味どう?と職員にも味見をしてもらいながら手際よく料理をすすめていました。盛り付けまでし、見事に美味しそうなハンバーグが出来ました。「どうかな?美味しく出来たかな?」と言いつつも、嬉しそうな表情のRさん。「つぎは、パンケーキやグラタンとか作りたいな」と意欲をみせていました。



本児の得意分野を伸ばし、そこから自信に繋がっていくよう、今後も本児との関わりを大切に支援していきたいと思ひます。



## 中秋の名月を こどもたちとともに

9月になってもうだるような暑さが続いており、庭の畑に植え  
た野菜たちもぐったりしていて、それを見た児童ともこの暑  
さがいつまで続くのだろうとよく話しています。そんな中、児童のお  
誕生日とお月見のイベントを開催しました。

9月は2名お誕生日を迎える児童がいました。好きな食事やケーキ  
を選ぶ姿に職員は大変嬉しくなり、飾り付けも職員と児童で楽しく  
行いました。お祝いをしてもらうことや何かを選ぶことがなかった  
児童が喜んでいる姿にこの経験が彼女たちにとってより良いもの  
になってほしいと願っています。

また、お月見のイベントには前々からリクエストのあったフルーツポン  
チ、お月見らしいお饅頭を出しました。フルーツポンチには炭酸  
ジュースを入れるのですが、思いっきり振ってから投入をしていて  
大変盛り上がっていました。

お誕生日会も楽しく過ごすことができました。誕生日のリクエスト  
は「お寿司」ということで、みんなで回転寿司に行きました。えんの  
子どもたちは食欲旺盛なのですが、この日はお寿司をお腹一杯食



べると意気込んでいた子もいて、朝食と昼食を抜いて挑んでいま  
した。たくさん食べることができて満足したようです。夕食のあとは  
ケーキを囲んでお祝いをしました。「たんじょうびおめでとう」とたく  
さんの仲間に祝ってもらうことができてとても嬉しそうでした。1年  
に1度の大切な日。これからも子どもたちに満足してもらえるよう  
な会にできたらと思っています。



## 行事を通してのこどもたちとの関わり

8月夏のイベントとして子どもたちの希望で1人は熊本県の  
阿蘇に行きたいと希望していたため日帰りで行きました。白川水源、米塚、阿蘇神社に行きドライブを楽しみ、インスタで  
映えると有名な「芸術ソフト」を食べランチに赤牛丼も食べ大満足  
の旅になりました。もう1人は花火がどうしても見たい!ということで  
花火大会に個別で連れて行きました。花火大会へ向かう道中で  
自身の子どもの頃に家族と花火を見に行ったことを思い出して話  
してくれました。幼少の頃のことで記憶にはしっかり残っている  
ようでした。この夏に見た花火も数年後に夏の思い出の一つとし  
て誰かに話してくれることがあれば嬉しいですね。

今年の9月17日は中秋の名月。

9月に新しくテンポラリーに入所した子どもと一緒に中秋のお団  
子を作り、夕食時に提供しました。完成時には「初めてやったけど、  
めちゃくちゃ楽しかった!」と笑顔を見せてくれました。また、自分が  
家庭を持った時には母としてこんな風に子どもにお菓子を作って  
あげたい、と話しておりその言葉に心が温かくなりました。



当日の夜は、天気にも恵まれとても綺麗な月を眺めることができま  
した。日本の古き良き文化に触れ、子どもたちや職員にとっても良い  
経験になったと思います。今後も、ハロウィンやクリスマス、年末年始  
などの大きなイベントだけでなくこういった趣のある行事なども積  
極的に行い、ホーム全員で楽しく過ごしていきたいと思っています。

## 子どもたちからの メッセージ 2024 秋

いつもアイグループを応援していただき、あり  
がとうございます。支援者のみなさまに子ども  
たちからのメッセージ動画を送ります。

下記にある動画視聴方法から、動画をぜひ  
ご覧ください。

Autumn 2024



メッセージ動画  
通信誌 vol.13



これからも、子どもたちの応援を  
よろしくお願い致します。

### スマホでこどもたちの動画をご覧ください。

専用アプリ(無料)  
**COCOAR**  
で検索もしくは、  
下記のQRコードよりダウンロードしてお楽しみください。



- 動画視聴方法
- 1 COCOARを  
起動、スキャンをタップ。
  - 2 [ ] にCOCOARを  
かざします。
  - 3 動画がスマホで  
見られます。
- ぜひお試しください!